モミジタマブキ

Parasenecio farfarifolius (Siebold et Zucc.) H.Koyama var. *acerinus* (Makino) H.Koyama

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正＋1（シカ食害）、総点 12。愛知県では点在するが個体数は少なく、しかもニホンジカによる食害で著しく減少している。

【形　態】

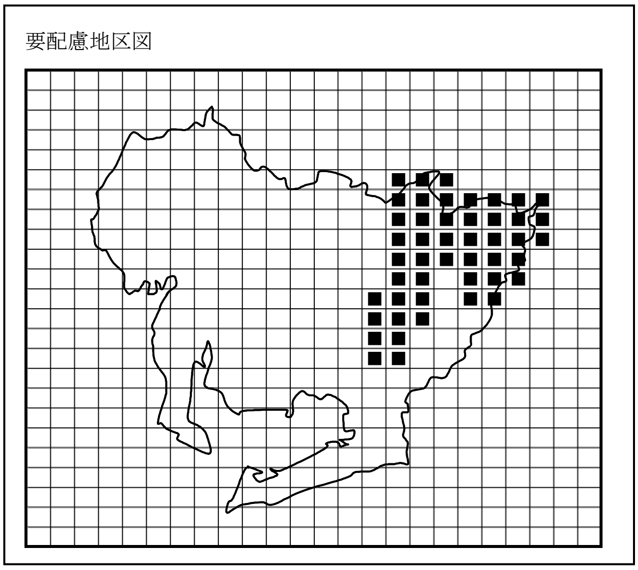
多年生草本。茎は直立し、高さ 50～80cm になる。葉は互生、下部のものには長さ 8～12cm の柄があり、葉腋にはむかごがつく。葉身は長さ 8～20cm、幅 11～22cm、掌状に 5 中裂して各裂片は更に切れ込み、中央裂片は最も大きく先端は鋭頭となり、葉の基部は心形になる。花期は 10 月、頭花は茎の先端に細い円錐形に集まってつき、総苞は長さ 9～10mm、小花は 5～6 個ですべて筒状花、花冠は黄褐色、そう果は長さ 4～5mm で冠毛は白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】
東：1 富山（小林 48092, 1993-9-19）、2 豊根（小林 39847, 1992-10-4）、3 東栄（小林 48505, 1993-10-9）、4 津具（芹沢 63373, 1992-9-10）、6 設楽西部（芹沢 64498, 1992-10-30）、11 作手（小林 55292, 1994-11-26）。西：5 稲武（塚本威彦 2575, 1997-10-18）。8 鳳来北東部（宇連山, 小林 19528, 1978-10-10）で採集された標本もある。

【国内の分布】
本州（東海地方、近畿地方）、四国、九州。

【世界の分布】
日本固有変種。種としても日本固有である。



【生育地の環境／生態的特性】

林内に生育する。沢からやや離れた場所にも見られる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では三河山地に点在していたが、個体数はもともと多いものではなかった。近年はニホンジカによる食害で更に減少している。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の食害に対する対策が必要である。

【特記事項】

ミヤマコウモリソウとも呼ばれる。基準変種のウスゲタマブキ var.*farfarifolius* は葉が切れ込まないもので、愛知県では東：2 豊根（小林 39927, 1992-10-10）、3 東栄（小林 48530, 1993-10-9）、4 津具（芹沢 70692, 1994-9-2）、7 設楽東部（芹沢 64079, 1992-10-5）、8 鳳来北東部（小林 54716, 1994-10-23）、11 作手（小林 58193, 1995-9-30）、西：5 稲武（小林 39963, 1992-10-12）、19 旭（塚本威彦 451, 1992-10-17）などで採集されている。

【関連文献】

保草本Ⅰp.47, 平草本Ⅲp.179, 平新版 5 p. 304.